

## いとこの長靴

ながぐつ



僕は3歳のとき、パトカーに乗ったことがあります。冬のある日の午後でした。友達の健ちゃんの家へ遊びに行こうと思いました。母は弟の世話で忙しそうでしたから、僕は「健ちゃんのうちへ行く。」と言って一人で出かけました。お古の長靴をはいていました。いとこが大きくなって、はけなくなったので、くれたのです。もらったばかりで、うれしかったのをよく覚えています。

健ちゃんのうちは隣の建物の5階で、建物は入り口が4つもありました。ぼくは何回も遊びに行ったことがあるのに、どれかよくわかりませんでした。「右から2つ目の入り口のはずだ」と思って、5階まで頑張っ

て登りました。ドアをノックしましたが、ドアを開けた女の人

は全然知らない人でした。「健ちゃんと遊ぶ。」と言いましたが、その人は健ちゃんを

知りませんでした。ここに引っ越ししたばかりだったのです。

名前を聞かれたので、「みのも」と答えました。家はどこか、父の名前は何か聞かれましたが、僕は答えられませんでした。女

の人は僕の服や長靴を調べて、長靴の中にいとこの名前が書いてあるのを見つけました。でもその名前は僕が言ったのと違うし、住所もないので、女

の人は僕を近くの交番へ連れて行きました。

警官が名前とうちを聞きました。僕は名前を教えました

が、警官も長靴の名前を見て、信じてくれませんでした。僕はパトカーで警察署へ連

